

我が國現下の難局に當面し、破局的行き詰りに瀕してゐる國民經濟を開拓するの途は、資本主義政治經濟制度に一大改革を加へ、新たなる政治經濟制度の樹立に根本的基調を置くの外は無いのである。

以上の世界及國內状勢に當面したる我が國労働組合及無産政黨は、未だかつて經驗せざる困難と一大試練に遭遇したることは言ふ迄もないが同時に又絶好の機會に際會したと言はねばならぬ。此の困難此の試練に打つ克つこそやがて吾等の時代を招來する礎石でなければならぬ。而るに此の試練と戰ふ勇氣と自信を持ち得ずに轉落するが如きは我等の断じて組みせざる所である。

我が官業労働總同盟は、以上の認識と見透しの下に、労働組合戦線の整理統一、大衆、社民兩黨の結合に依る強力無産政黨の樹立を提唱し、その實現に向つて努力を傾倒して來たのである。今や日本労働俱樂部は漸次内容を充實すると共に労働組合會議結成の準備に着手し、今秋迄實現せんとしてゐる社民・大衆の合同は、着々と進行し二ヶ月を出ですして強力な新黨が樹立されれるであらう。

五十九議會に於て労働組合法を壓殺し去つた資本家階級は、因果應報の理にもれず、立腐れに頻した資本主義を背負ふて最後の懊惱をなしてゐる。我等の前途洋々たるものありと言はねばならぬ。

第十四回大會を迎ふるに當つて、組合員大衆の血涙に依つて戦はれた過去一ヶ年間の貴き鬭争に對して深く敬意を表するものである。所期の成績を挙げ得なかつたにしても、官業労働者大衆の生活防衛に十分の責務を果し得たと信ずる。

昭和七年六月

官業労働總同盟

中央委員長 西浦宇吉